

提案名	経年美化を楽しむ BESS の家 地域中目材流通コンソーシアムによる丸太組構法住宅先導モデルの提案	分野	木造等循環型社会形成の分野に係る提案
提案者	株式会社アールシーコア	種別	システム提案
構造	木造住宅（その他）	建て方	一戸建ての住宅

■提案の基本的考え方

本事業は、長期優良性能を備えた丸太組構法住宅によって、持続可能な国産材活用の面でその重要性が増している杉の中目材有効活用に貢献することを目的としています。

同時に、自然材・無垢材の多用に特徴のある丸太組構法住宅に対して、メンテナンスへのユーザー積極参加を前提とした維持保全計画をシステム化することで、長期間に渡り良質な住宅として使ってもらいながら、社会資産として次世代へと引継がれることを目指す提案でもあります。

BESS は、人と自然が心地良く共存し、のびのびとおおらかに、しかも長く暮らせる家を良い住宅だと捉えており、全国 23 社の建設事業者とパートナーシップを組みながら、自然材・無垢材を活用した丸太組構法住宅を全国 34 拠点で提供しているグループです。本事業では、地域中目材の流通ネットワークを新たに構築し、ユーザーと国産材とを結び付けることで、循環型社会の実現を目指します。

■提案内容

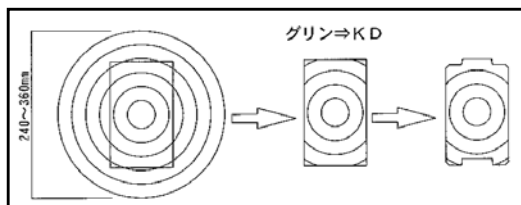
地域中目材をたっぷり使って作る、丸太組構法の家

丸太組構法住宅は、大断面の自然材を横に積み重ねていくシンプルな工法です。自然材をたっぷり使った住宅であり、その断面サイズから、地域中目材の活用に大きく貢献できます。

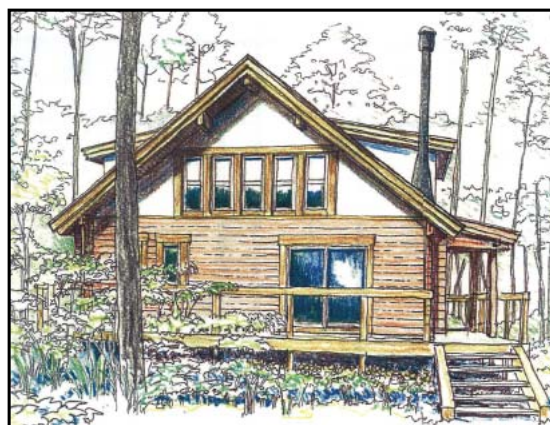
現在、戦後の杉造林木の蓄積が増えており、また、伐採期の長期化が進行していることから、今後特に径級 20～28 cm の杉中目材の供給が増加すると見込まれ、10 年後には中目材が出材の 5 割に達すると言われています。柱材の生産を中心に行っている製材工場においては、木取りの関係上、残ってしまう部分が多く出ることから、中目材は敬遠されがちな状況にあります。

しかし、BESS の丸太組構法住宅は、中目材を効率的に活用する製材・乾燥・加工の技術を備えており、中目材を有効に活用できます。中目材の活用に積極的に関わることができる丸太組構法を、BESS では健全な森林育成に貢献する住宅構法だと位置付けており、森林の持続的な活用に貢献します。

中目材の利活用策として、今後、丸太組構法を普及させていくため、規格化された平角材のサイズをベースとした断面とします。更に、モルダーなど汎用的な製材設備で加工が可能な仕様とし、丸太組構法の拡大を目指します。施工性を考慮し、丸太組構法部材は工場ではプレカット化することで、良好な施工性と、生産流通履歴の管理を実現します。



【丸太加工の流れ】

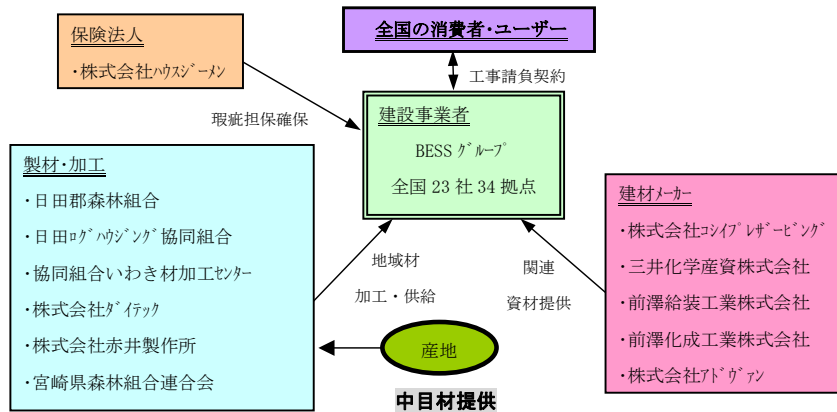


【丸太組構法住宅イメージ】

杉地域材生産地と全国とを結ぶ流通コンソーシアム構築

地域材を活用した丸太組構法住宅を全国的に安定供給することで、産地と消費地の結びつきを強め、木材活用の好循環を実現します。そのために、東北・九州の原木産地を起点として、産地、製材メーカー、建設事業者が連携した一貫供給コンソーシアムを新たに構築しました。

長期に渡って木材製品を使う場合、しっかりと乾燥を施し、寸法安定性を確保することが欠かせません。杉の心もち無背割り材の乾燥では、割れを抑制することが難しいですが、本提案では、大分式高温乾燥法を採用し、乾燥品質と安定的な生産を両立します。



ユーザー参加型維持保全の推進

住宅の長寿命化を実現するためには、住宅ハード面の高耐久化とともに、特に自然材を使用する場合は、ユーザーが愛着を持って自らメンテナンスを行えるようにサポートすることが重要です。BESSでは、自然材の特性や自主メンテナンスの重要性をお手入れ・DIY イベントや専用の冊子で啓蒙しています。また、メーカーと協同で無垢材の外部長期仕様を前提とした高耐久性塗料・防腐材を開発。ユーザー自身がメンテナンスする際に、有償で提供しています。



メンテナンスイベントの様子

《オーナー同士の暮らしの声を共有して、維持保全意欲を醸成》

BESS オーナーの声を集めた、ブログ集を2009年7月に開設 (<http://www.bob-bess.jp/>)。オーナーの暮らしぶりが分かる生の声を掲載しており、DIY・メンテナンスのオーナー個々の情報も充実。オーナー同士でメンテナンスに関する情報を共有できるように仕掛けたとともに、オーナー自身が、自分にもメンテナンスが出来るという前向きな気持ちの醸成を目論んでいます。

長期間に渡る維持保全体制

責任施工した建物全てについて、BESSは住宅瑕疵だけでなく、地盤まで最長50年間保証。引渡しから2年間で3回、50年保証対象物件については5年目以降、5年ごとに9回、チェックリストに基づいて定期点検を実施し、住宅履歴書のデータを更新します。万一の不具合は、24時間電話受付サービスでフォローを行います。

木質バイオマス活用の提案

限りある資源を有効利用する循環型社会への移行を加速する上で、バイオマスの利活用は有効です。バイオマスを燃焼させた際に放出される二酸化炭素は、元々は生物の成長過程で光合成により吸収したものですので、大気中の二酸化炭素を増加させることはありません。BESSでは、住宅における木質バイオマスの活用策として薪ストーブを積極的に推奨しており、2009年実績でBESS全体の50%を超える設置割合になっています。薪ストーブの維持管理には、手間がかかるものですが、顧客が楽しみながら使いこなし、少しでもバイオマスエネルギー活用に寄与できるよう推進しています。



BESS 推奨薪ストーブ

■提案者からのコメント

現在の日本では、ユーザーが維持保全に参加する意欲が高まりにくいという課題があります。特に自然材を用いた住宅を、長期に維持保全する場合において、ユーザーの維持保全に対する意欲は、住宅長寿命化の重要な条件です。しかし、実際には、メンテナンスフリーを求めるユーザーも多く、ユーザーの意識を変えていくことが求められています。BESSでは、ユーザーをサポートしながら、家への愛着を増してもらうために、積極的にユーザーの自主メンテナンスを推進しています。今後の日本では、ユーザーと建設事業者がバランスを取りながら、維持保全を行う必要があると捉えており、本提案によって、「経年美化」の考え方を広めています。